

アメリカのラビがピオ12世に「正義の人」の称号を与えるよう求める

ローマ(2006年1月17日)

歴史と政治学の教授 David Dalin は、合衆国で出版した著作で、ピオ12世が第二次世界大戦中にユダヤ人保護のためにしたことに敬意を表すため、「正義の人」という称号を教皇に与えるように求めた。

その著作は歴史の中で多くのローマ教皇がユダヤ人を中傷と迫害から守ろうとしたことを示す。

Regnery Publishing 社から出版された、『ヒットラーの教皇という神話』と題されたその本は、エウジェニオ・パッチェリ教皇(ピオ12世)がユダヤ人をナチの迫害からいかに救ったかについての多くの事実を語る。

Dalin は多くのユダヤ人学者の研究を引用する。例えば、Pichas Lapide の『ローマとユダヤ人』、反中傷連合のメンバーである Joseph Lichten が1963年に出した『ピオ12世とユダヤ人』など。

また、教皇がユダヤ人迫害を前に沈黙したという非難に対し、『ハンガリーのユダヤ人と教皇庁』を書いたハンガリー人の歴史家 Jenő Levai、そしてニュールンベルグ裁判で合衆国の副検事長を勤めた Robert M.W.Kempner が1968年に英語で発表した『ピオ12世は沈黙しなかった。教会と国家の報告、史料、文書館』も引用する。

最近の研究からは、Dalin はまだ存命中の最も権威あるユダヤ人歴史家の中で、ウイストン・チャーチルの公式の伝記を書き、第二次大戦とショアーについて70冊以上の著作を表した sir Martin Gilbert の研究を強調する。

Gilbert は、人種差別思想とナチからユダヤ人を擁護するために、カトリック教会がした全てを語り、「ピオ12世は非難されるどころか、賞賛されるべきだ」と断言する。

ユダヤ人を救うための尽力を考慮に入れて、Dalin はピオ12世に「正義の人」という、ヘブライ人が異邦人に与える最高の称号を与えるように提案する。その称号は、エルサレムの Yad Vashem 協会が与えることになっている。

さる11月3日、Jerusalem Post のホームページでこの著作に高い評価を下した書評が出た。

なかでも興味深いのは、Dalin が諸教皇のユダヤ人に対する態度を分析する章である。ユダヤ人を評価し認めるといふ教皇たちの伝統は、アメリカのラビによれば、ユダヤ人擁護を定めた教令“Sicut Judaeis”を出したグレゴリオ1世(590~604)に始まる。

Calixt 2世もユダヤ人の保護を保証し、“Sicut Judaeis”を再確認した。

14世紀には、ユダヤ人が大ペストの元凶とされたとき、クレメンス6世(1342~1352)がヨーロッパの君主の中で唯一ユダヤ人を弁護した。

ボニファチオ9世(1389~1403)はユダヤ人への保護を拡張し、1402年には彼らにローマ市民権を与えた。彼は教皇領でユダヤ人を雇用した最初の教皇である。

マルティン5世(1417~1431)とエウゲニオ4世(1431~1437)は個人的な侍医にユダヤ

人医師 Elijah ben Shabbetai Be'er を雇い、この医師は教皇のおかげでヨーロッパの大学（パヴィア大学）で教鞭をとった最初のユダヤ人となった。

シクスト4世はバチカン図書館で写本に従事する職員としてユダヤ人を雇い、ローマ大学に初めてヘブライ語の講座を作った。彼の治世にユダヤ人の人口は倍増した。

この他に Dalin はニコラス5世、ジュリウス2世、レオ10世、クレメンズ7世、パウロ3世、ベネディクト14世、クレメンズ13世と14世、レオ13世、ピオ9世にも言及し、みなユダヤ人のために仲介の労をとったと言う。

20世紀では、合衆国のラビはベネディクト15世を上げる。同教皇は反セム主義を断罪する文書を発表した。その文書の草稿は未来のピオ12世、若いエウジェニオ・パッチェリによって書かれた。

ピオ11世は、あるラビからヘブライ語を習ったが、「精神的には我々はみなセム族である」と断言したことで有名である。

ヨハネ23世とパウロ6世は、第二次大戦中ユダヤ人救済のために側近としてピオ12世を助けた。

ヨハネ・パウロ2世は、ローマの会堂をはじめて訪れ、またエルサレムの嘆きの壁で祈りを捧げた最初の教皇である。

ベネディクト16世は、昨年8月、故国ドイツでケルンの会堂に歴史的訪問を成し遂げた。

Dalin は書物の最後の部分で、エルサレムの偉大なイスラム教の宗法解釈官 Hajj Amin al Husseini が第二次大戦中、何度もヒトラーと会っていたこと、アドルフ・ハイヒマンの友人としてアウシュビッツの収容所を訪れ、ユダヤ人国家の樹立を防ぐためにヨーロッパのユダヤ人を全滅させることに賛成であるとドイツのラジオでコメントしたことを紹介している。

現在反セム主義が再び台頭している今、Dalin は真実の歴史を思い出し、カトリック教会の教導職が出した人種差別を断罪する文書の研究を提案する。